た時、水帳に登錄せられてゐる村高に達せねば、その不足高は卽ち無地高である。檢地の際測量を誤つたか、或は山崩・川缺等があつても見捨高としなかつた結果、かうした事が起つたものであつた。

ムシヅカ　虫塚　天保十年浮塵子の被害甚だしかつた時、能美郡德橋組の十村田中三郎右衞門は、是が驅除に盡力し、その捕獲した虫を集めて埴田・岩淵の二ヶ所に埋め、碑石を立てゝ後人を戒めた。その岩淵のものは、高さ一米二、周圍七五糎の圓柱で、次の文が刻さられてゐる。『虫塚。當年七月中旬頃より、俄に稻株よりこぬか虫多く生じ、悉稻を枯らし、一統なんぎに及び、布木綿のふくろを以てとり集め候虫、此所に十六俵埋おく。若此虫末に生る時は、草修理の頃早く木實油を田面にまき、拂ひ落してとれば虫愁うすかるべし。余は除蝗錄に委し。虫愁をおそれ、後年の記錄に建之候事。天保十年九月建之。』又埴田のものは高さ一米五で『虫塚。あゝいかなる故にや、當年七月までは順氣むるい。草生よく早稻穗に出、一統悅び畏夜賑候内、同月中旬のころより俗にこぬか虫俄に生じ、早稻をいゝかれかゝり、中稻晩稻次第につよく、稻多枯何れも難儀。右虫布もめん袋を以てとり集め候分、此所に二十三俵許埋をく。此末虫生る時は、草修理の頃はやく木の實油を用ゆれば愁うすかるべし。余は除蝗錄に委し。虫の愁を恐れ、後年の記錄に建之事。天保十年九月建之。』とある。

ムジナ　貉　白山地方では穴熊をムジナと稱することが多い。

ムシボシ　虫干　金澤城下諸寺の寶物虫干は、藩政時代に於いて六月土用中に行ふを普通とした。

ムセキ　無關　鹿島郡能登島庄に屬する部落。文明十三年正月向田代官三階家吉の判書に、隣邑關と共に、關無關なる一邑として揭げられてゐる。

ムソウセンク　夢想千句　横本一册。惡乘坊快全が、元祿十五年菅公八百年忌に獨吟し、これを玉泉寺天滿宮に奉納したもので、上梓せられてゐるが刊記は無い。

ムソク　無息　無足とも書く。元和二年の令に、家中一年切奉公人のことに就いて『此法度以前走候ものゝ餞は、爲過怠當年中無足にて可召仕候。』とある如く、無給米又は無給銀の義に用ひられた。隨うて士分の子弟の如き、未だ藩から知行又は扶持を受けざるものも、屢無息又は無息人の語を以て表されてゐる。

ムタンソカン　無端祖環　曹洞宗の僧。能登の人。幼にして大乘寺に瑩山紹瑾を禮して得度し、その命により明峰素哲・無外圓照に師事し、後峨山紹碩の門に入つて五哲の一に居り、終に總持寺に主となり、越前の椿越祥隣寺を創するや、請ぜられてその開山となつた。

ムツドウグ　六道具　→ナナツドウグ　七ッ道具。

ムテイ　無底　→テツランムテイ　鐵藍無底。

ムテイリヨウシヨウ　無底良韶　曹洞宗の僧。能登國酒井保の人。弱冠を過ぎて深く世相を厭ひ、遂に永光寺の明峰素哲に投じて得度し、次いで峨山紹碩に投じて契悟する所があり、後永光寺八代に住し、正平十六年寂した。

ムトウエスウ　無等慧嶼　曹洞宗の僧。峨山紹碩に謁して旨を得、能登の永光寺に住し、又光穩寺を開いた。

ムトウカヘエ　武藤加兵衞　父を村瀨彥太郎といひ、前田利長に仕へたが、後牢人したもの。加兵衞は寛永十九年利常に召出されて百五十石を領し、外に御異風料二十石を受けた。子孫相繼いで藩に仕へる。

ムトウシヨウベエ　武藤庄兵衞　土肥蕓雲の子で、祿二百四十石を受け、寛永十六年前田利常が隱據した後、之に從うて小松菰島に居た。この庄兵衞から四代庄兵衞知周の時又土肥氏に復した。

ムトウシロベエ　武藤四郎兵衞　初め織田長孝に仕へ、後前田利常に臣事して二百石を受け、天和三年に歿。子孫代々藩に世襲する。

ムトウタジエモン　武藤多次右衞門　元祿六年御居間坊主として柳翠といひ、享保二年御歩に進み五十俵を受け、九年新知百三十石を領して新番に列し、十一年七十石を加へて組外に班し、十三年正月十八日歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ムトウハンザエモン　武藤半左衞門　父長門守は豐臣秀次に仕へて三萬五千石を領したが、その生害の後秀吉から黑田筑前守に預けられ、德川家康の時に至つて宥免、蜂須賀家政に寄食して終つたもの。半左衞門は慶長十三年前田利長に高岡に召出され、三百石を祿せられ、寛永六年五月十六日歿。子孫藩に世襲する。

ムトウモトノブ　武藤元信　安政元年六月金澤に生まれ、裕軒・何故樓・古人可友樓と號した。慶應三年藩學明倫堂に入り、次いで豐島毅に就きて漢學を學び、明治十四年以後三十二年まで師範學校に教鞭を執つた。後東京に出でゝ枕草紙の研究に從ひ、その著に清少納言枕草紙考異・枕草紙通釋・枕草紙別記・枕草紙逸文・枕草紙錯簡考・枕草紙異本考・むかしの面影・何故樓隨筆等がある。大正七年十二月二十日歿、享年六十五。

ムトウモトヤス　武藤元安　通稱判右衞門。天和元年新番小頭として新知百五十石を受け、貞享三年父半左衞門歿後遺知三百石を襲いで先知を還し、組外に屬し、翌年御書物奉行に補し、元祿三年奥小將横目として職俸百石を受け、十年組外御番頭に轉じて職俸百五十石となり、十六年御先弓頭に任じて職俸また前の如くであつた。正德四年病を以て辭し、享保元年十二月十日七十三歲で歿した。元安深く心を幕府及び本藩法令の研究に止め、又國學を學んで江戸に祗役中吉川惟足に從遊した。

ムトウモトヨシ　武藤元良　通稱濃之助。成堂を以て號とした。天保八年父元貞の後を受けて御馬廻組に班し、食祿四百石。元良武技を好み、八島金藏の門に入つて頗る精妙の域に達し、屢前田齊泰の覽を得て賞賜せられるに至つた。安政四年十二月歿、享年七十。

ムトウリヨウユウ　無等良雄　曹洞宗の僧。出羽の人。月泉良印の法を嗣ぎ、初め加賀の佛陀寺に住し、尾張の正法寺に遷り、後退きて出羽に正應寺を開いた。

ムトクリヨウゴ　無得良悟　江沼郡大聖寺なる寶性院四代の住持。會津の人。初め黃檗